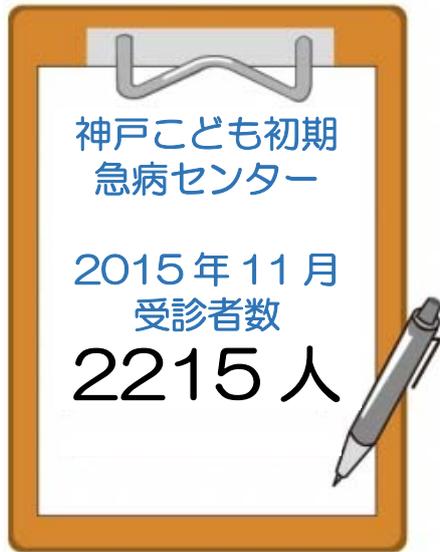


Emergency Watch

No.60 Dec. 2015



【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎	: 581人
2. 感染性胃腸炎	: 546人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎	: 223人
4. 気管支炎	: 122人
5. クループ性気管支炎	: 72人



神戸こども初期急病センターの11月の総受診者は2215人でした。内容としては、急性上気道炎・咽頭炎が581人、感染性胃腸炎が546人と中心を占めています。ひきつづき、手洗いやうがいの励行をお願いしたいと思います。

今回は「RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）感染症」について取り上げたいと思います。RSウイルス感染症は咳や鼻汁などの呼吸器症状を引き起こす病気であり、秋から冬にかけて増加し、冬期に最も流行します。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされており、乳幼児の代表的な呼吸器疾患の原因となっています。一方、年齢を問わず何度でも繰り返し感染し、大人であっても感染することがあります。



Q1：どんな症状が出ますか？

鼻汁や鼻づまりなど軽い症状からはじまり、数日後には咳や喘鳴などの症状に進展します。多くの場合、1～2週間で徐々に症状は改善しますが、特に6ヶ月未満の乳児では喘息のような強い喘鳴や呼吸困難、38度程度の発熱を伴うこともしばしばありますので注意が必要です。乳幼児で呼吸困難や経口摂取不良など症状の強い場合には入院が必要となる場合もあります。一方、一般に年齢が上がるほど免疫力があがるために、年長児や大人ではいわゆる鼻かぜ程度の軽微な症状のみにとどまることも多いです。

Q2：どうやって感染しますか？

感染者の咳やくしゃみなどで飛び散るしぶきを吸い込むことによる「飛まつ感染」、感染者との直接的な接触や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等）を触ったりすることによる間接的な接触による「接触感染」が主要な感染経路です。手についたウイルスは約30分感染力を有するとされており、かなり感染力が強いウイルスといえます。

Q3：予防法はありますか？

RSウイルスは飛沫感染と接触感染で広がるため、マスクの着用と手洗いをするこゝである程度予防することができます。アルコールなどでの環境の消毒および除菌も効果的とされています。ウイルスの感染力が強いことから、保育園や家族内での感染も多く、みんなで予防の意識を持つことが大切です。

Q4：感染してしまったら？

残念ながら、RSウイルスに対する治療薬（抗ウイルス薬など）はありません。感染した場合には、鼻水や咳などの症状に対して対症療法を行うこととなります。先ほども述べたように、年長児や大人が感染しても軽い症状で済みますが、乳児では重症化することが多いのが、RSウイルス感染症の特徴です。年長児や大人が乳児に感染させてしまわないよう、感染者と乳幼児との接触を避けることが何より重要です。